

教職実践演習2011

# これからの学校教育

～「問い」を発する子ども

の育成～



田大学教育文化学部

附属教育実践研

究支援センター

石橋 研一

# 「秋田の教育」の流れ

## S40年代の学力・・・全国調査で最下位グループ

- 子どもの学力向上は、秋田県民の悲願
  - S53年から4年間「学校教育基本構想懇談会」を開催

### 本県学校教育の目標

## 「豊かな人間性をはぐくむ学校教育」

- S61年～「心の教育」を推進
- H5年～「ふるさと教育」の推進【学校教育共通実践課題】
- H14年度～「学習状況調査」(県教委)
- H19年度～「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

**H22 全国体カテスト 3年連続全国トップ級**

# 学校教育共通実践課題

## ふるさと教育の推進

平成5年度～ 学校教育共通実践課題 「ふるさと教育」の推進

ふるさと教育は、幼児児童生徒が郷土の自然や人間、社会、文化、産業等と触れ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視することによって

- (1) ふるさとの良さの発見
- (2) ふるさとへの愛着心の醸成
- (3) ふるさとに生きる意欲の喚起

を目指す

平成23年度 校種間を貫くキャリア教育の視点を重視したふるさと教育の一層の充実

# 本県の児童生徒の現状

H23.7 義務教育課調

- 各種調査において、学力、体力ともに、本県の平均値は全国の平均値を上回っている。
- 不登校、校内暴力等問題行動の出現率が、全国平均と比べて低い。
- 学力面、運動面ともに、上位層の資質能力が十分に伸ばされていない面がある。
- 学年が進むにつれて、自分の考えを述べる  
ことについて消極的になりがちである。

# 本年度の学校教育の重点

教育活動全体を通じて行うキャリア教育の推進



**「問い」を発する子ども**

公の場で自分の考えを積極的に発言することができる子どもの育成

# 「問い」を発する子どもをどう育てる！

## 毎日の授業では

- ① 1単位時間の授業展開の工夫
- ② 学習意欲を高める教材・教具の工夫
- ③ 体感(五感)を重視した学習活動
- ④ 話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの習慣化 など

## 学校・日常生活では

- ① 何でも話せる学級の雰囲気づくり(人間関係)
- ② 子どもの感性や好奇心を刺激する手立ての工夫



自然や人間、社会、文化等との触れ合いの機会が充実するほど「問い」が生まれる。

# 問題解決の方法は常に複数ある

探究の過程における問題解決活動では、子ども一人一人の考えを大事にしたい。発表や表現の方法は、子どもに応じて、ことば、図示、ジェスチャー、製作物など多様な物を認めていく。



問題解決の方法は複数あり、早く正解を出すことのみを優先しない。



教師と子どもの一問一答から脱却し、子ども同士が、他者の考えに触れ、自分の考えを修正したり、深めたりできる学び合いの場を大事にする。発問の後には、間をとるようにする。



基礎・基本をしっかりと習得させ、それを活用して問題を解決する思考力、判断力、表現力をつけるようにする。

# 「問い」を発する子どもを育てる！



子どもを教え導きその成長を見取ることができる教師の仕事は、やりがいのある仕事のひとつと言える。教員の採用状況も少しずつよくなってきており、高い志と強い意志を持って教師になる道を切り拓いてほしい。